

力強い襷リレーに熱い声援

12月2日、総合公園内で第62回“浮き城のまち行田”駅伝競走大会が開催され、14部門に市内外の155チームが出場し健脚を競いました。

一人3,000メートルの5区間を継走するレースには、市外からのチームも多数参加。力強い真剣な走りに会場から、たくさんの熱い声援が送られていました。



忍城址に鷹が舞う

11月24日、忍城址で放鷹術の実演が行われました。鷹匠から鷹狩について説明があった後、鷹匠の手から放たれた鷹がもう一人の鷹匠の手に止まる「振替ふりかえ」などの技が披露されると見学者からは感嘆の声が上がっていました。また、この「振替」を体験するコーナーも設けられ、「思っていたより鷹が軽く止まる感じでした。貴重な体験ができてうれしいです」と体験者は笑顔で感想を伝えていました。



寒さも忘れるほどの楽しいイルミネーション

11月25日、古代蓮の里で点灯式が行われ、「古代蓮の里イルミネーション2018」が始まりました。

今シーズンは、古代蓮会館周辺を中心に約15万球のLED電球を使用し、蓮のオブジェや青いトンネルなどが飾られた他、古代蓮の里イルミネーションでは初となる「光の未来館」と題したプロジェクションマッピングを実施。古代蓮会館の外壁に映し出され、軽快な音楽に合わせて変化する古代蓮の四季の様子に、訪れた人々は寒さも忘れ楽しんでいました。



ずっしりとした重さに大喜び

12月1日、古代蓮会館で田んぼアート米の配布が行われました。

田植えと稲刈りに参加した延べ約1,500人に、田んぼアートの背景部分などに植えられていた「彩のかがやき」をお礼の品として配布。1袋2キログラムに袋詰めされた米を受け取った人たちは、ずっしりとしたその重さに驚きながらも喜んでいる様子で、来年も参加したいと話していました。



先輩移住者が行田の魅力伝える

11月23日、本市への移住に興味がある方を対象に、移住体験バスツアーを開催しました。

東京都や県南部から21人が参加し、忍城址や古代蓮の里など、行田ならではの観光名所を見学。その後の交流会では、実際に行田に移住した方々との意見交換が行われ、参加者からは「自然が多く暮らしやすそう」などの感想が寄せられました。



多くの人々で込み合う平成最後の酉の市

12月6日、愛宕神社周辺で行田酉の市が開催されました。

境内は、色とりどりの熊手を販売する露店が立ち並び、多くの参拝者で終始混み合っていました。平成最後となる酉の市、人々は慌ただしい年の瀬に商売繁盛や家内安全を強く願って縁起物である熊手を選んでいました。



旬の農産物を求め、大いににぎわう

12月1日、JAほくさい行田中央支店広場で第1回行田農業まつりが行われ、たくさんの人出でにぎわいました。

まつりでは行田産の農産物を使用した豚汁や赤飯が無料で振る舞われた他、行田市農業青年会議所会員らによるポン菓子作りの実演が行われ大きな爆発音が会場に響きわたると、詰め掛けた人たちからどよめきが起こっていました。

また、同時開催された行田市農産物品評会には、農家が丹精込めて育てた自慢のミカンや白菜、里芋などの農産物が数多く並び、来場者らはその旬の品々を買い求めていました。

